

Q5. 海外旅行者向けワクチンはどこで接種してもらえますか？

海外旅行者向けワクチンの接種施設は限られており、それを探すのに苦労する方も多いようです。厚生労働省検疫所や日本渡航医学会のホームページには、日本全国の接種施設のリストが掲載されており、それをチェックするのも一つの方法です。こうした情報を掲載しているホームページを表4に示します。

黄熱ワクチンの接種施設は、検疫所かその関連施設に限られています。予約制の場合も多いので、あらかじめ電話などでお問い合わせください。

● 表 4. インターネット上の情報サイト

● 厚生労働省検疫所 http://www.forth.go.jp 海外の感染症流行情報、推奨予防接種情報、国内の予防接種施設情報
● 国立感染症研究所感染症情報センター http://idsc.nih.go.jp 海外の感染症流行情報、各感染症の解説
● 外務省・渡航関連情報 http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko 国別の生活注意事項、海外医療施設情報
● 海外勤務健康管理センター http://www.johac.rofuku.go.jp 推奨予防接種情報、海外医療施設情報、薬剤情報
● 母子衛生研究会 http://www.mcfh.or.jp 小児の予防接種情報、英文診断書に関する情報
● 海外邦人医療基金 http://www.jomf.or.jp 海外医療施設情報
● 日本渡航医学会 http://www.travelmed.gr.jp 国内の予防接種施設情報
● 日本小児科医会国際部 http://210.230.237.164/~jpa 国内の予防接種施設情報

Q6. 予防接種には副反応がありますか？

接種後に腫れや痛みといった軽い副反応は時々おこりますが、ショック症状やケイレンなど重篤な副反応は大変稀になっています。ただし、アレルギー体質があったり、以前に予防接種で副反応をおこした方については、事前にその旨を医師にご相談ください。また、妊娠中は接種できないワクチンがありますのでご注意ください。



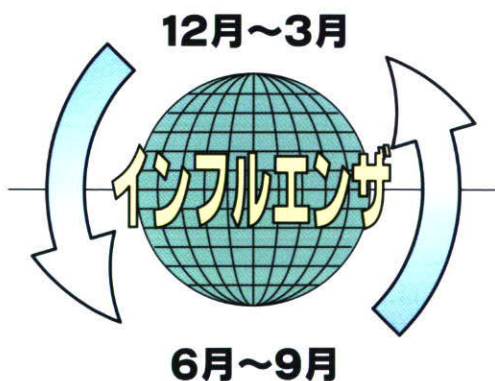
日本で認可されていないワクチンの接種

わが国では腸チフスや流行性髄膜炎のワクチンが認可されていませんが、輸入ワクチンの接種を行っている医療施設が国内にはいくつかあります。こうした医療施設は検疫所や日本渡航医学会のホームページで紹介されています(表4)。



海外旅行とインフルエンザ

旅先が冬のシーズンであれば、インフルエンザの対策が必要です。とくに旅行中は、バスや飛行機など密閉した空間にいることが多く、感染リスクが高くなります。北半球では12月～3月、南半球なら6月～9月が流行の季節です。この時期に旅行される方は、手洗いやウガイなどの予防対策を忘れずに実行してください。なお、日本では10月以降にインフルエンザワクチンが流通します。頻回に旅行される方は事前に接種しておきましょう。



海外で動物に噛まれたら

海外では狂犬病が流行しており、犬などの動物に噛まれたら狂犬病予防のための処置が必要になります。まずは、噛まれた部位を水や石鹸で洗浄してください。そして、できるだけ早く医療施設を受診し、狂犬病ワクチンの接種を受けるようにしましょう。流行地域でも都市部であれば、こうした処置をしてくれる医療施設がいくつかあります。もし、噛まれた後の処置が難しいようなら、出国前に予防接種を受けておくようにしてください。



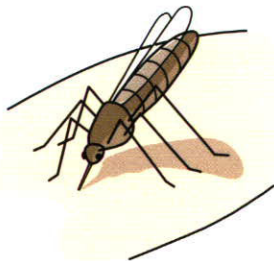
● 動物に噛まれた後の狂犬病ワクチン接種

事前にワクチン接種(3回)を受けている方	2~3回接種
事前にワクチン接種を受けていない方	5~6回接種 免疫グロブリンを接種することもある

マラリアの予防

マラリアは熱帯や亜熱帯地域に広く流行している熱病で、有効な予防接種は今のところありません。このため、媒介する蚊に刺されないようにして予防します。マラリアを媒介する蚊は夜間吸血性なので、夜間の外出を控え、室内に侵入する蚊を殺虫剤などで駆除するのが効果的な方法です。どうしても夜間外出する際には、皮膚が露出しない服装をしたり、防虫スプレーを塗るなどしてください。

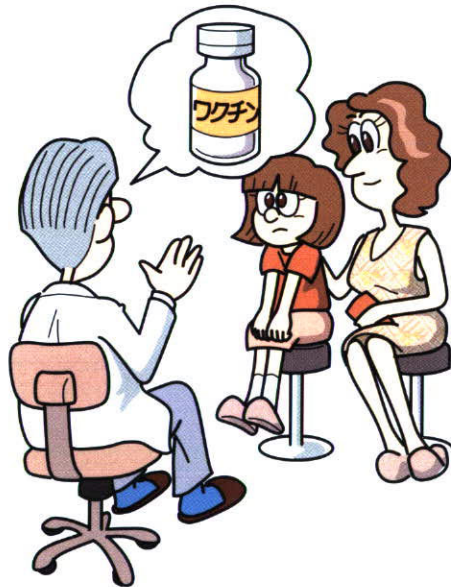
薬剤(メフロキンなど)を定期的に服用して予防する方法もありますが、副反応の発生も少なくないため、感染症の専門医に相談してから服用するようにしましょう。



Q7. 子どもにはどんな予防接種が推奨されますか？

お子さんを海外旅行に連れて行く時期は、日本での定期予防接種が一段落する3歳以降をお奨めしています。また、海外旅行者向けワクチンの子どもへの接種は大人に準拠して行います。ただし、わが国ではA型肝炎ワクチンが16歳未満の小児に認可されていません。接種をご希望の場合は小児科医にご相談ください。

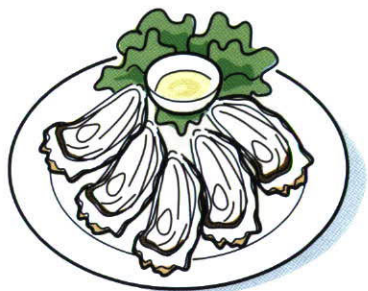
保護者の海外赴任などに伴って、お子さんを海外に長期滞在させる場合は、現地で定期予防接種をどのように継続させるか、現地校の入学時に必要な予防接種をどのように受けさせるかなどの問題が発生します。その対処法については、国内の小児科医にご相談ください。



付録・各ワクチンの解説

● A型肝炎ワクチン

A型肝炎は飲食物からかかる病気で、生の海産魚介類から感染するケースが多いようです。発熱や黄疸などの症状をおこし、1ヶ月近い入院生活を強いられます。衛生状態の悪い発展途上国では数多くの患者が発生しており、たとえ短期間であっても、こうした地域に滞在する方には接種をお奨めしています。



● B型肝炎ワクチン

B型肝炎は性行為や医療行為から感染します。発展途上国で広く流行しており、アジア、アフリカ、南米が高度流行地域です。発病すると長期の入院を強いられるだけでなく、一部は劇症型となり、命を失うこともあります。高度流行地域に滞在する場合は、ワクチン接種を受けるようにしましょう。



●破傷風ワクチン

破傷風の病原体は土の中に潜んでおり、大きな怪我をすると傷口から浸入します。最初は口が開きにくいことで気づき、後にはケイレンをおこしたり、死亡することもある病気です。怪我をしてから医療施設を受診し、破傷風ワクチンの接種を受けることもできますが、海外では医療施設を受診をためらう方も多く、それだけ発病のリスクが高くなります。そこで事前の接種をお奨めしています。



●狂犬病ワクチン

日本では狂犬病が根絶されていますが、アジアやアフリカなどの発展途上国では、多くの患者が発生しています。この病気はイヌやネコ、コウモリなどの動物に噛まれて感染します。発病するとケイレンや意識障害などをおこし、100%死亡する恐ろしい病気です。このため、動物に噛まれた後の適切な処置(詳細は10ページのコラムを参照)が受けられない方には、事前のワクチン接種をお奨めしています。



●黄熱ワクチン

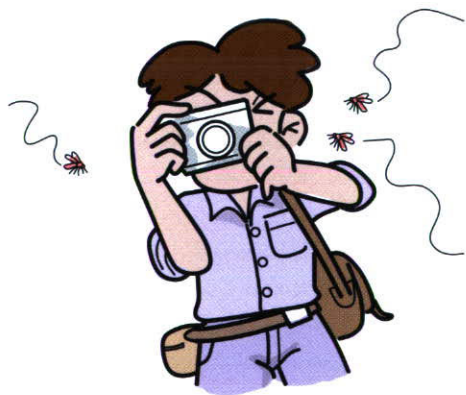
黄熱は蚊に媒介される病気で、熱帯アフリカや南米が流行地域です。通常はジャングルの中で流行しているため、旅行者が感染することは稀です。しかし、発病すると死亡率が高いことから、流行国に滞在する際には、短期間であってもワクチン接種をお奨めしています。

流行国の中には、入国する際にワクチン接種証明書（イエローカード）の提示を求める国があります。どの国で要求されているかは、検疫所のホームページをご参照ください。



●日本脳炎ワクチン

日本脳炎は蚊に媒介される病気で、中国、東南アジア、南アジアで流行しています。発病すると意識障害や麻痺をおこし、死亡することも少なくありません。ただし、都市部で感染することは稀な病気ですので、農村地帯を生活の基盤とするならば、ワクチンの接種を受けてください。



● ポリオワクチン

インドやアフリカでは今もポリオ患者の発生がみられています。この病気は飲食物から感染し、麻痺をおこします。ポリオワクチンは小児期に接種していますが、流行地域に滞在する際には追加接種を受けておくと安心です。とくに1975～76年生まれの方は抵抗力が弱いとされており、接種をお奨めしています。

なお、日本では小児期にポリオワクチンを2回だけ接種しますが、多くの国では3回以上の接種を行っています。お子さんを現地校に入学させる際には、その国の回数を要求される場合もあるので、事前に学校にご確認ください。



平成20年1月 発行

編集・発行：厚生労働科学研究費補助金・新興再興感染症研究事業

海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究班

(班長：川崎医科大学小児科学第2講座教授 尾内一信)

連絡先：〒701-0192 岡山県倉敷市松島577川崎医科大学小児科学2

TEL:086-462-1111 (代表)

URL：<http://www.kawasaki-m.ac.jp/hospital/medi/pediorg.html>

印刷・製本：アイワ印刷株式会社